豊中のESD10年のまとめ

未来につなぐ
みんなのチャレンジ

豊中市

はじめに

本市では、2004年7月15日に、ESDにかかる最初の取組みとして「持続可能な開発のための教育の10年（ESDの10年）」に関するワークショップを開催いたしました。このワークショップは、当時、とよなか国際交流協会に在籍されていた榎井縁さん（現大阪大学特任准教授）がESD関西（ESD-K）のメンバーであったことが縁で、ESD関西から講師をお招きすることができ開催の運びとなったもので、その後、写真ワークショップなどの取組みにつながりました。

また、2005年7月には、NPO法人エコ・コミュニケーションセンターの代表の森良さんを講師としてお招きし、ESDファシリテータートレーニングコース（2日間）を行いましたが、この研修を受講した各団体の中心的な方々がESDによる新しい地域づくりを学び、その後、環境省のESD促進事業の採択やESDセミナーの実施へとつながっています。

現状としましては、市内でのESDの名称を冠した事業・行事は限られてはいるものの、市民団体や行政における取組みにはESDの視点を取り入れたものもあり、また、地域からもESDにつながる取組みが新たに生まれつつあります。

このように、本市はさまざまな団体などに支えられながら取組みを進めてまいりましたが、この度、ESDの10年の最終年度を迎えたことから、この10年を振り返り、また、総括することを目的として「未来につなぐみんなのチャレンジ～豊中のESD10年のまとめ～」を作成いたしました。

取組み当初の方々による原稿やメッセージ等で構成していますので、この10年を懐かしく振り返るとともに、この先10年の取組みの参考としていただければと思います。また、これから、ESDを始めようと思っておられる方（この冊子では「ESD0（ゼロ）年の人」という。）に向けてのメッセージも発信されています。「ESD0年の人」にとってこの冊子が「未来」へと「つなぐ」お手伝いとなることを願っています。

最後になりましたが、「未来につなぐみんなのチャレンジ～豊中のESD10年のまとめ～」の作成にあたりご尽力いただいたESDとよなか連絡会議の皆様をはじめ、ご協力をいただいた関係者のみなさまに厚くお礼申し上げます。

2015年3月
豊中市

ESDとは・・・

ESD（Education for Sustainable Development）とは、「持続可能な開発のための教育」の略です。
国連は、2005 年～ 2014 年の 10 年間を「持続可能な開発のための教育の 10 年」としています。
「持続可能な開発」というのは、環境・社会・経済のバランスがとれた社会を次世代につなげていくことです。

Sustainable Development　持続可能な開発

私たちは、戦争や貧困で命を奪われる人がいること、安全な水を飲めなかったり、学校にいくことのできない人がいること、病気や餓えに苦しむ人がいることを知っています。その一方で、自然が残してくれた資源をどんどん使って、自然を破壊したり有害をもたらすものをつくり続けていることも知っています。

このまま競争型の社会を続ければ、ますます一部の強い人がもっと豊かになって、多くの弱い人がもっと貧しい状態になります。力の強いものだけがいろいろなものを使えて勝つ世の中が続いたら、世界そのものが崩壊する危険があることがわかってきました。

世界のすべての人の命や生活が大切にされ、次の世代にもそういう環境を残せる発展のあり方、消費や破壊でない循環型の社会づくりが求められています。

Education　教育

未来をつくるのは「人」です。人をはぐくむのが教育です。私たちは、持続可能な未来をつくるために知恵を出し合わなくてはなりません。

いま、社会の課題は、環境、開発、人権、男女共同参画、多文化共生、平和、福祉など多くの分野にわたり、複雑に絡みあっています。これらの課題を解決するためには、分野や世代を超えてつながり、取り組んでいくための学び（教育）が必要です。

多様な価値観をもった「人」が積極的に学び合い、いろいろな視点からものごとをみられるようになることが大切です。

●ESD の国際的動向

1992 年　国連環境開発会議（リオデジャネイロ）
　　「アジェンダ 21」の中で持続可能な開発のための教育の重要性が指摘される
2002 年　持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ）
　　日本の提案により世界首脳会議実施計画に「ESD の 10 年」の記述が盛り込まれる
2002 年　国連第 57 回総会
　　2005 年～ 2014 年の 10 年間を国連 ESD の 10 年としユネスコを主導機関に指名
2005 年　国連 ESD の 10 年国際実施計画をユネスコにて策定し、国連総会にて承認
2009 年　ESD 世界会議（ボン）
2012 年　国連持続可能な開発会議（リオ＋ 20）（リオデジャネイロ）
　　宣言文の中で 2014 年以降も ESD を推進することが盛り込まれる
2014 年　持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ会議
　　国連 ESD の 10 年最終年に日本で開催（名古屋市・岡山市）

参照：「元気いっぱい ESD グッドプラクティス事例集」（P.29）

もくじ

2004年

P.5

写真ワークショップ

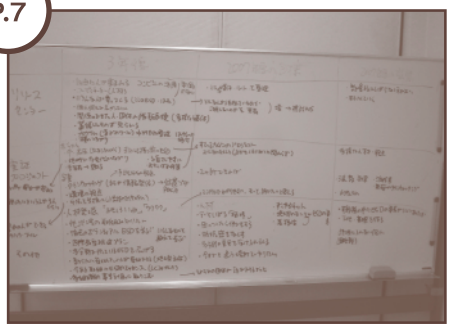
2005年

P.6

キックオフミーティング

2006年

P.7



ESDとよなか事務局
ESDとよなか庁内連絡会議

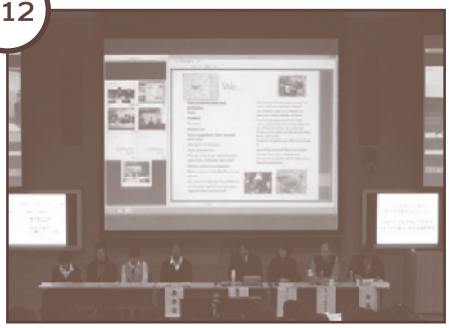
2008年

P.11

ESDセミナー

2009年

P.12



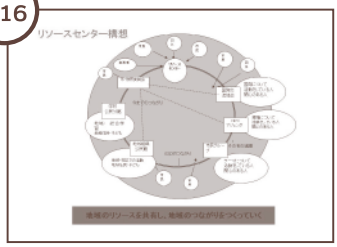
ユネスコスクール

P.13

ESDリソースセンターWEB

✦ キーワード

P.16



リソースセンター構想

P.17

公民館事業

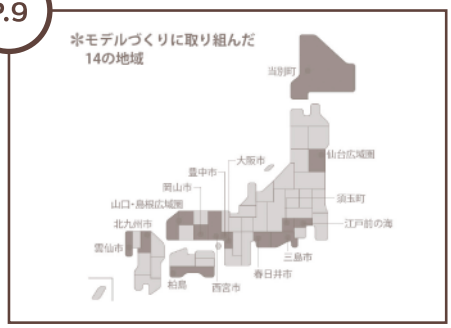
P.18

しょうないREK
天竺のはらっぱであそぼう会

P.8

赤ちゃんからのESD

P.9



環境省ESD促進事業

P.10

豊中市国際教育推進協議会

2011年

2014年

P.14

ESDとよなか連絡会議

P.15

千里文化センター
「コラボ」との連携

TOYONAKA ESD
10Years

豊中ESD10周年

Contents

P.1 ── はじめに
P.2 ── ESDとは
P.19 ── 10年間の成果
P.21 ── ESDと私
ーこれまでの活動をつないできたみなさんー
P.23 ── ESDと私
ーこれから未来へ活動をつなぐみなさんー

資料編
P.25 ── 豊中市内のESD年表
「ESDの10年」とよなか連絡会議設置要綱
ESDとよなか連絡会議規約
豊中のESDが紹介された発行物

写真ワークショップ

2004年～

廣田　学（とよなか市民環境会議アジェンダ 21）

タウンウォッチングからスタート

豊中で ESD をスタートするにあたり、まずは「場づくり」「しくみづくり」「まちづくり」といったつながる「場」が必要で、そのためには自分たちの住んでいるまちを一度見てみようということから「チャレンジ★写真ワークショップ in 庄内」を企画しました。地域教育振興課の岩井さん（当時）が紹介したタウンウォッチングという手法により、2004 年 8 月に小学生を対象に庄内周辺で実施しました。

豊中生まれで新聞記者（講師）のアドバイスを受けながら、参加者はカメラを持って地域を歩き、グループごとに「私のこだわり」を探します。「ひと」「音」「仕事」「道路」「看板」「お店」など、どんなものにこだわるのか、「みる」「さわる」「かぐ」「きく」「あじわう」など、どんな方法で探すのか、どこをまわるのか、「タカの目」「ネコの目」「アリの目」など、どんな目でさがすのか…。会場に戻ってから、プリントした写真を模造紙に貼り、自分たちオリジナルのマップをまとめて、グループごとに発表しました。

こんなまちにしていこう

庄内の写真ワークショップでは、まちに全然関心がなかった小学 6 年生の女子 2 人が、まちを再認識することにつながりました。そこで、十分な仕組みづくり・人づくりの視点、「こんなまちにしていこう」という視点を入れながら、各地域（克明、刀根山、野畑、上野、庄内など）での実施へと展開することとなります。この取組みでは、国際交流協会、世界人権宣言豊中連絡会議、アジェンダ 21 などの異分野の団体が共同作業を行い、ESD とよなか事務局（P.7 参照）の基盤となりました。さらに、こうしたタウンウォッチングの手法は、その後の ESD セミナー（P.11 参照）や、千里文化センター「コラボ」との連携（P.15 参照）でも活かされています。

チャレンジ★写真ワークショップ
- 2004年8月23日、24日　野田小学校
- 2004年12月18日　豊中人権まちづくりセンター
- 2005年7月30日、31日　刀根山小学校

こどもワークショップ「○○になって見ました！」
- 2007年2月25日　庄内公民館
- 2007年7月24日　野畑小学校

上野小学校教員対象ESDワークショップ
- 2007年9月12日　上野小学校

しょうないdeくらし隊～写真ワークショップ～
- 2008年3月2日　庄内公民館

ESDセミナー（まち歩きに関するもの）
- 2008年10月11日　東丘小学校
- 2012年11月3日、20日　豊中駅、千里中央

千里まめ記者探検隊（コラボまつり）
- 2012年10月27日　千里文化センター「コラボ」

コメント　豊中市施設活用推進室　荒井　啓子

手探りで取り組む中にこそ、物事が進まない悔しさも、素晴らしい人たちとの出会いも、自分の成長（ホントかな？！）もありました。座右の銘？「環境にやさしいことが人にもやさしいとは限らない」「多様な価値観は、ぶつけあうのではなく、折り合いをつけるのが大切」もできました。

「写真ワークショップ」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

キックオフミーティング

2005年～

榎井　縁（大阪大学特任准教授）

最初のきっかけ

2004年4月、大阪でESD関西（ESD-K）の準備会議にて、開発教育協議会の岩﨑裕保さんからの「市民参加に実績のあるアジェンダ21がある豊中で、ぜひやったらどうだろうか」という一声が、豊中のESD誕生の契機となりました。そこで、アジェンダ21事務局長の井上和彦さんとお会いし、ESDの“E”の部分で思いが重なったことを鮮明に覚えています。小中学校等で取り組まれる総合的な学習の時間などの中で、「環境」や「国際」が体験的に消費されて終わっていることに辟易としており、本当に大切なことを次世代に伝えるために、この機会は使えると踏み出すことになりました。

キックオフミーティングの内容

2005年2月、全国に先駆けて（フライングと呼ばれた）豊中版ESDのキックオフ会議を開催しました。当日は市の関係者（環境・人権・教育・子育て・国際）、中間支援組織（男女共同参画・国際交流・人権文化まちづくりセンター）、市民団体、学校関係者など70人規模の集まりとなりました。

まずは、地域課題に関わるどのような教育活動が行われているのかを鳥瞰するため、13団体から子どもの居場所づくり、環境教育、福祉・ボランティア教育、人権教育、国際理解教育、男女共同参画推進教育といった具体的取組みが報告されました。報告を受けて参加者が感じた「豊中のつよみ」「豊中のよわみ」を貼り出し、参加者で「ESDプロジェクト」の提案づくりのワークショップを行いました。そこで発表された5つの提案が以下の内容です。これらの中にはESDとよなか事務局（P.7参照）に引き継がれて、実行に至るものもいくつか生まれました。

① おしゃれで便利なライフスタイルブックを発刊しよう
② とよなか版『世界が100人の村だったら』の作成
③ 赤ちゃんからのESD展開
④ 人間ビオトープ「わたしたちでつくるわたしたちの居場所」
⑤ ESDサロンの開設（Eええこと　Sしなやかに　Dだめもとで）

つながりのきっかけとして

地域には課題があり、課題に対するさまざまな取組みや活動があります。それらが、従来の課題別や担当別でばらばらに進められるのではなく、未来にむけての学びとして、つながる時の、その名目なり、きっかけなり、が「ESD」という看板だったのではないかと思います。特にこの時期、人、モノ、財源、情報の限界のなかで職責を超えたつながり（今でいうところの「協働」）が役所側から求められており、また、各分野に関わる市民活動が縦割化、蛸壺化していく傾向の打破も求められていました。

誰にとっても安心・安全なまちづくりのために、それぞれの課題を地域課題として相互共有し（空間をつなぎ）次世代に引き継いでいく（時間をつなぐ）ことで、地下茎のようにさまざまな方向に拡がっていくような形の地域づくりを試みることが、ESDとよなかのスタートであったと認識しています。

コメント　帝塚山学院大学教授　岩﨑　裕保

榎井さんに「ESD、豊中でやらなかったら、どこでやるんですか」とけしかけました。それは間違った思いではなかったことはその後の豊中が証明してくれてます。「ちゃんと付き合ってね」と今もお声をかけていただけるのは嬉しいものです。私たちで変えてみよう、私たちが変わろう、というのはステキです。

「キックオフミーティング」について知りたい方は、とよなか国際交流協会へご連絡ください。

ESDとよなか事務局・庁内連絡会議

2006年～

山本　瑞枝（豊中市コミュニティ政策室）

緩やかにつながる ESD とよなか事務局会議

キックオフミーティング（P.6 参照）の後、「つながる」ことの大切さを感じていた NPO、財団法人、社会福祉法人、行政の関係課などの多彩なメンバーが集まって、ESD とよなか事務局会議の活動が始まりました。活動分野も、環境、福祉、国際、人権、教育など多岐にわたります。豊中における ESD の促進に必要なことは何かを話し合い、資金や人材、ネットワークなどを持ち寄りました。取組むテーマに関わるメンバーがいない場合は、新たに加わってもらうよう声をかけたり、協働を働きかけたりするなど、ネットワークを拡大。組織に合わせて活動を考えるのではなく、活動内容に合わせた機能をもてるよう、組織のほうを柔軟に変化させていきました。

会議として ESD を実践

ESD とよなか事務局会議は、これまでの組織のような代表等の役職を設定しませんでした。参画するみんなが主体的に関わり、日頃の活動を通じて把握した地域課題の解決や ESD の普及促進につながると思える案を提案し、賛同を得て役割分担しながら進めるという、ある意味手間のかかる運営方法をとりました。

そのため、スケジュールどおり効率的に進まなかったり、このような運営に慣れていない行政の部局に負担感が生じたりもしました。一方で、その多様性の中から創造的なアイデアが生まれたり、最初は役割として参加していたメンバーが大きな力を発揮するようになるなどの嬉しい変化もありました。

豊中の ESD は、「ESD という分野」を新たにつくりだすのではなく、分野を越えたあらゆる活動に通底（つうてい）する考え方、基本姿勢として展開、発展させることができました。その原点は、「誰もが自らのこととして考え、学び合い、行動につなげる」ことを会議の中でも実践したことにあるのではないでしょうか。

庁内連絡会議の立ち上げ

行政においても部局を越えた連携を進め、ESD とよなか事務局会議の活動との両輪で ESD の取組みを多様な分野にひろげようと、2006 年 10 月、庁内連絡会議が設置されました。15 の関係課などで構成する「持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」とよなか連絡会議です。当面の豊中市における ESD の取組みを総合的に推進することを目的に、市長部局の環境政策室と教育委員会の生涯学習推進室が共同で事務局を担うという、当時の行政としては異例の態勢を組みました。

とはいえ、ESD の知識や取組み経験を持つ庁内の関係者はわずか。ESD の概念や世界と日本の動き、豊中での具体的な活動を学ぶことからスタートしました。議論の過程では、分野や部署によって、これまでの市民活動との関係性や関わり方に違いがあることも浮かびあがってきました。そこで、市民・事業者との協働を進める、各々の施策・事業に ESD の視点を盛り込んでいくことを確認し、可能なことから実施していくことになりました。

ESD の芽が庁内でも成長

こうして撒かれた ESD の種は、その後庁内のあちこちで芽吹き、成長していきます。たとえば、2010 年に策定した教育振興計画では、「『人とつながり、未来を切り拓く力』を育む」として、ESD の理念につながる考え方を示しています。また、2011 年に策定した第 2 次環境基本計画では、「環境政策を推進するための総合的なしくみづくり」の中に「ESD の 10 年の動きと協調し、環境、教育、人権、国際などの各分野で主体的に ESD の推進に取り組む」ことが明記され、事例として ESD セミナー（P.11 参照）の開催や ESD リソースセンター WEB（P.13 参照）などの事業が挙げられ、実施されています。

「ESD とよなか事務局・庁内連絡会議」について知りたい方は、環境政策室へご連絡ください。

赤ちゃんからのESD

2006年～

上村　有里（赤ちゃんからの ESD）

連続講座の開催

2005 年のキックオフミーティングで出された提案をもとに、豊中市家庭教育協議会と（財）とよなか国際交流協会の事業として、2006 年 3 月に「やってみよう！赤ちゃんからの ESD」連続講座が開催されました。その講座の受講生を中心に集まったママたち 15 名ほどが「赤ちゃんからの ESD」を結成。千里公民館を拠点として「子育てママのまちあるき」やマップづくり、「思い」を「かたち」にするワークショップなどを行い、子育て環境を見つめ直し、子育て中でもできる活動を継続・発信していきました。

結成 2 年目には、メンバーが主体になって連続講座を企画。3 年目は、より多くの人に参加してもらえるよう「みんなにこにこ家族まつり」を実施しました。

プロジェクト制へ

その後、プロジェクト制を採用。親子クッキングや親子カフェなどに取り組む「食育」チーム、陶器のリユースなどを推進する「環境」チーム、千里の自然に親しむ「外遊び」チーム、HP やブログ、通信など情報発信する「広報」チームが発足。プロジェクトごとの活動をすすめていきました。2009 年 1 月には、千里公民館との共催事業「千里親子ふれあい広場」をスタート。現在も、毎月 1 回第 1 木曜日に開催し、図書館や子育て支援課と連携しながら運営しています。広場には、市内外問わず、多くの親子が参加してくれています。

また、環境チーム「陶器とりかえ隊」は、そのしくみがわかりやすく、誰でも参加しやすいことから、地域で大きく広がりました。当初はメンバーが出前で開催していた陶器市でしたが、「ひがしまち街角広場」や「しょうない REK」（P.18 参照）では、自主事業として地域のボランティアが運営。コラボ交流カフェと環境交流センターには、常設コーナーを設置していただくことができ、日々、多くの方に利用していただいています。

新たな取組み

2013 年より、（株）チクマとのコラボ企画である「服育カフェ」をスタート。市民環境展での「キッズファッションショー」に出演するなど、新たな取組みも進めています。もうすぐ 10 年目を迎えるいま、とりまとめ冊子の編集・発行を通じて、より多くの世代に ESD の取組みをわかりやすく伝えていきたいと思っています。

2006 年 3 月　「やってみよう！赤ちゃんからの ESD」連続講座（千里公民館）
2007 年 3 月　「赤ちゃんからの ESD」連続講座（2 回目）（千里公民館）
2008 年 3 月　「みんなにこにこ家族まつり」（千里文化センター「コラボ」）
2008 年 5 月　「陶器とりかえ隊」スタート（新千里ひがしまち「街角広場」）
2009 年 2 月　とよなかエコ市民賞受賞
・ホームページ　http://babyesd.web.fc2.com
・ブログ　http://babyesd.blog19.fc2.com/

コメント　赤ちゃんからの ESD・「きっちんすまいる」主宰　横地　多実子

自分にも子どもたちにも地球にも、そして未来にもやさしい食べ方・暮らし方を心掛けています。一つひとつの行動は些細でも、繰り返し積み重ねていけば、共感し同様に行動する人が増えて、やがては声となり、うねりとなります。社会全体がその方向にシフトしていく可能性を、ESD の活動を通じて学ばせていただきました。

「赤ちゃんからの ESD」について知りたい方は、赤ちゃんからの ESD へご連絡ください。

環境省ESD促進事業

2006年～

井上　和彦（京のアジェンダ 21 フォーラム）

環境省 ESD 促進事業の概要

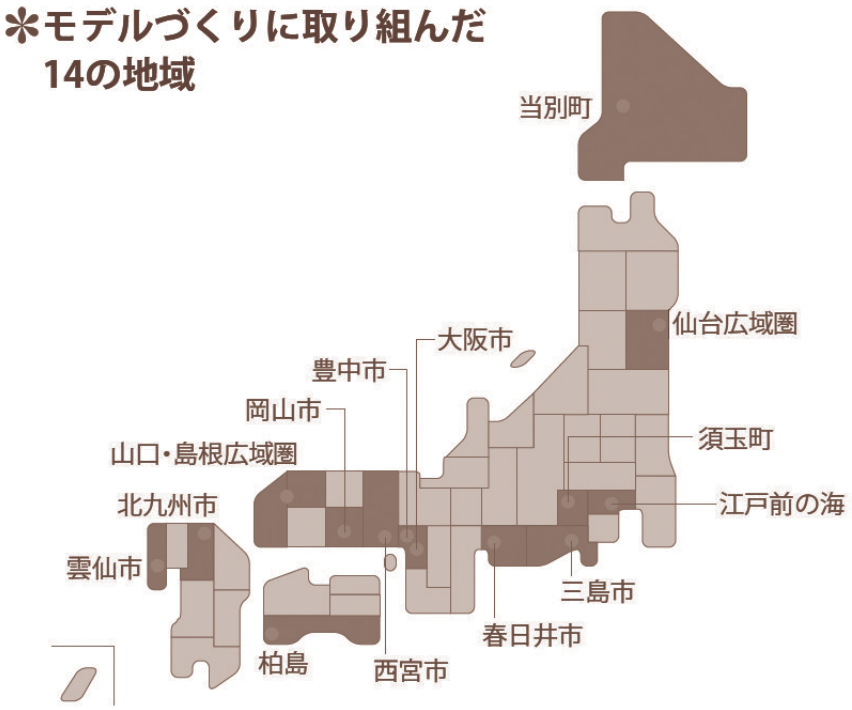
2005 年から国連 ESD の 10 年が始まり、環境省では 2006 年度から地域での ESD を普及させるため、ESD 促進事業（正式名称：「国連持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業」）を実施しました。全国からモデル地域を公募し、2006 年度には豊中市を含めた 10 地域（応募 75 件）、2007 年度には 4 地域が採択され、それぞれの地域で実践しながら、そのプロセスと成果を公表するというものです。なお、この事業は、NPO 法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議（ESD-J）が全国事務局を担い、採択された地域のサポートや交流などを行い、全国へも情報発信を行いました。

ESD とよなかの対応

2004 年度から取組みを始めていた ESD とよなかでも、ESD を具体的に進める原動力となるよう、この事業に応募することになりました。その際、申請窓口団体を決めるのに、「環境省だからアジェンダがいいか」「いや、かえって異分野である国流の方が印象的ではないか」などと話し合い、最終的にとよなか国際交流協会が申請窓口団体となり、環境省との請負契約も結びました。ESD とよなかの中では、それくらい各団体がフラットな立場で参画していたということが伺えるエピソードです。その際のテーマは「ESD とよなか次のステップへの推進事業（仮称）『ESD とよなかリソースセンター構想』」（P.16 参照）としました。

成果

この事業では、ESD とよなか事務局会議で多様な主体の参加を得ながら、写真ワークショップや赤ちゃんからの ESD などの実践活動を協働で行うことにより、「リソースセンター」というプラットフォームについて議論しました。その中で、参加した人々がそれぞれの立場で社会のために何ができるか学び、経験を積むことができました。そして、多分野の団体や人々の間で、他では得られない関係づくりや連携へ波及していったことが大きな成果であったと考えられます。なお、全国の成果については、環境省発行の冊子「地域から学ぶ・つなぐ 39 のヒント」（P.29 参照）にまとめられました。



「環境省 ESD 促進事業」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

豊中市国際教育推進協議会

2006年～

榎井　縁（大阪大学特任准教授）

国際理解教育の捉え方

国際理解教育の捉え方は、世界（ユネスコ）と日本はだいぶ違っていました。ユネスコは、終戦後、戦争防止と平和のために国同士が理解し合うために国際理解教育を提唱し、1974 年には人権を前面に出した問題解決のために行動する態度や技能を育成する国際教育へと一大転換をしました。一方、日本では中教審答申（1974 年）で初めて「国際理解教育の推進」が取り上げられ、国際社会に生きる日本人の育成が目標とされました。文化交流、英会話、日本伝統などがキーワードとなる日本独自路線を歩んだのです。

しかし、20 世紀最後の 10 年に、“成長”のツケが地球環境、エネルギー・資源、人口、平和、人権など地球規模の諸問題として噴出し、世界で広がる格差と次世代との格差に歯止めをかける「持続可能性」を真剣に考えなくてはならないという事態が起きました。知識として国際を理解するのではなく、課題の解決に積極的に参画し貢献する主体になることが求められはじめたのです。そして日本国内では、国境を越えて多くの人々が地域で暮らすようになりました。日本政府が「多文化共生」を考えはじめたのもこの時期です。

文部科学省の検討会報告

2005 年 8 月、文部科学省は「初等中等教育における国際教育推進検討会報告」で、従来の海外子女教育、帰国・外国人教育、国際理解教育の上位概念として「国際教育」を据える画期的な方策をだしました。学力問題で矛先を向けられた総合的学習の時間の目玉であった国際理解教育が、時代の変化の中で批判的に捉えなおされました。

そこでは「初等中等教育段階においては、すべての子どもたちが、①異文化や異なる文化もつ人々を受容し、共生することのできる態度・能力、②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立、③自らの考えや意見を自ら発信し、具体的に行動することのできる態度・能力、を身に付けることができるようにすべきであると考える」と謳われ、ユネスコ提唱の社会を変革する「国際教育」が認知され、知識でなく、行動するための態度・能力が求められたのです。また、学校だけでは限界があるため、セクターを越えた有機的な連携として、学校・教育委員会、国際機関、地域国際交流協会、NPO/NGO、企業、大学、関連学会などとのネットワーク形成が提案されました。

豊中市国際教育推進協議会への参加

2006 年度、文部科学省は国際教育拠点の形成と国際教育に関する情報発信を開始するために、「国際教育推進プラン」という新規事業を立ち上げて全国 4 つの地域を研究指定し、その一つを豊中市としました。その推進母体となったのが豊中市国際教育推進協議会です。3 年間の研究の後、豊中で展開されたことについては、この冊子の 12 ページをご覧ください。ESD と国際教育は世界の流れの中では同じものでしたが、文科省の提唱した国際教育は教育政策の中で留まるものでした。しかし豊中という地域での実践の中で推進教育協議会が ESD と出会い、ESD とよなかもそのメンバーとして参加することで、地域と学校の双方がつながり、国際教育を推進する教育現場にも ESD が浸透していくようになったのは全国でも豊中だけだったと思われます。

「豊中市国際教育推進協議会」について知りたい方は、とよなか国際交流協会へご連絡ください。

ESDセミナー

2008年～

山根　歩（豊中市障害福祉課）

ESD セミナーとは

ESD セミナー（エコライフセミナー）は、環境の視点から始まり、ESD に関わる多文化共生や地域福祉などさまざまな地域の活動や団体などの資源をつなぐことをめざして行ってきました。参加者が多様な視点で地域を知り、自らの生活や未来に役立てていけるよう、セミナーの形式で、食育や、資源の地域循環、フェアトレード、地域交流、国際交流などをテーマに学びました。

こんなことをしました

2008 年～ 2011 年には各回、テーマに合わせて各分野で活動をされている方を講師にお招きしました。環境（気候変動、ごみの減量など）がテーマの回には、お話を聞きその後ワークショップを行い、食育がテーマの回には、お話を聞きながらみんなで調理を行いました。地域の資源の循環を学ぶ回には、農園でいもほりをし、豊中の堆肥”とよっぴー”のお話を聞きました。世界で起こっている人権問題について学ぶ回には、フェアトレードのチョコレートやコーヒーとともに、参加者同士が話をしながら交流を深めました。2012 年の ESD セミナーでは、専門のテーマを設けず、地域の ESD につながる活動を見つけるため、千里中央や豊中駅周辺でまちあるきをし、まちにある”いいところ”を再発見しました。

毎年、連続で 2 ～ 4 回のセミナーを短期間に行い、最終回に ESD について考える機会を設けました。そしてセミナーを振り返りながらまとめ作業をし、作成したマップなどを環境展で発表しました。

ESD セミナーを通して…

各回別にテーマを設けて連続セミナーを行った 2008 年～ 2011 年では、参加者の方から「同じテーマで話を聞いても、人の受け取り方や感じ方、自分自身へのブレイクダウンが全然違うことに驚いた」という声があるなど、環境や国際交流、地域の活動など各テーマについて体験しながら学ぶだけでなく、さまざまなことを感じとっていただけました。2012 年のツアーでは、1 回のツアーでさまざまな活動を見学、体験し、日ごろ何気なく見ているものに、さまざまな活動が関わっていることを知り、新たなつながりができるきっかけとなりました。

ESD セミナーを通じて“ESD とは何か”ということを理解することは、なかなか難しかったかもしれません。しかし「興味のあることから入ることで、入りやすかった」という参加者の声があったように、もともと興味のある分野をきっかけに、日ごろ触れることの少ない他の分野について知る機会があったことで“ESD”につながる一歩になったのではないでしょうか。

2008 年度　わたしから広げる　未来のまちのつくりかた
2009・2010 年度　「食」から地域・世界とつながろう！
2011 年度　親子ではじめるエコライフ
2012 年度　豊中再発見！まちあるきツアー
2013 年度　私のいいとこ　みーつけた！

コメント　元非常勤職員　井之上（高木）恵子

セミナーと言っても、講師の方のお話を一方的に聞くだけではなく、参加者が意見を出し合ったりして活気のあることが多く、満足感の多い時間でした。日常生活のちょっとした一面から世界とのつながりを見つめ直したり、新しい考え方を発見できたりしました。

「ESD セミナー」について知りたい方は、環境政策室へご連絡ください。

ユネスコスクール

2009年～

安家　紀子（豊中市教育推進室）

豊中型国際教育

豊中市教育委員会は、2006 年度文部科学省の「国際教育推進プラン」の研究指定後、豊中市国際教育推進協議会を研究母体に、豊中型国際教育を発信しました。豊中型国際教育は、ESD を柱に、学校、行政、国際に係わる地域諸団体等が連携し、グローバル社会を生きる力の素地となる多文化共生の資質やコミュニケーション能力の育成をめざしています。その具現化に向けて、豊中市では、2009 年度に、ユネスコスクール活用等による国際教育推進事業を立ち上げ、加盟推奨と豊中型国際教育の研究実践を始めました。現在、豊中市ではユネスコスクール加盟校が申請中を含め 7 校あり、豊中型国際教育の推進役として ESD 実践ガイド・カリキュラムの開発や実践等に取り組んでいます。

また、市内 13 校が国内の、沖縄市、気仙沼市や国外のアメリカ合衆国、韓国、ニュージーランド、タイの計 16 校とつながり、環境や平和等に関する交流学習を行っています。昨年度からは、国内外の学校間でフレンドシップ協働学習のネットワーク化を図り、「環境」を共通のテーマに協働学習にも挑戦しています。本プログラムは、参加校の子どもたちが、身近な環境問題について探究活動を行います。そして、その成果と課題を TV 会議で話し合い、自分たちにできることを考えアクションを起こすというグローカルな活動です。子どもたちは、地域や世界のさまざまな課題を自らの問題ととらえ、協働的に学ぶなかで、子ども自身が内なる力を発揮して自信を獲得するなど、より深い学びとなっています。

「つどう、つながる、つちかう、未来への行動力」

ESD で始まる豊中型国際教育は、身近な現実から出発する教育です。子どもは「大人」とは異なった「子どもという社会」を生きており、そこには、未来を創る世代としての学びがあります。具体的には、自分自身の可能性を広げる学び、自分を育む学び、自分の大切なものを見つける学び、でもあります。同時に、全ての人の多様な可能性を認める学び、お互いに育みあうための学び、他者が大切にしているもの、それを大切にすることを学ぶ学び等々です。

人や社会が持続的に発展して未来を開いていくために、豊中市は「つどう、つながる、つちかう、未来への行動力」をキャッチコピーに国際教育を進めています。UNESCO は、このような学びを次のように表現しています。Learning to know（知ることを学ぶ） Learning to do（なすことを学ぶ） Learning to be（生きることを学ぶ）Learning to live together（ともに生きることを学ぶ）

子どもたちが、さまざまな人との対話を通じて知恵を出し合い、自分たちが考えた未来にむけアクションを起こすことは、きっと、グローバル社会で必要となる「生きる力」に通じるものになると信じています。

豊中のユネスコスクール加盟校
上野小、新田小、桜井谷小、千成小、第二中、
第十一中、第十三中（申請中）

コメント　前上野小学校長　中木　常雄

次代を担う人材には、地球的視野で物事をとらえることのできる広い視野と主体的な行動力の育成が不可欠であることから、ユネスコスクールに加盟し、国際教育に取り組みました。授業は勿論、学校行事など全教育課程で ESD を意識しました。韓国の菊山小学校との WEB 協働授業や NZ の大学生実習受け入れが大きな思い出です。

「ユネスコスクール」について知りたい方は、教育推進室へご連絡ください。

ESDリソースセンターWEB

2009年～

豊田　泰則（豊中市環境政策室）

ESD リソースセンター WEB の公開

豊中市では、2009 年 9 月から現在の「ESD リソースセンター WEB」(http://esdtoyonaka.net/) を公開しています。この WEB ページでは、社会で起こっているさまざまな問題を見つめ、一人ひとりができることから問題の解決にとりくめるよう、身近にできる活動や講座、お店の情報などを提供しています。

取り組み紹介

市民の ESD 活動の紹介では、豊中市内で活動するさまざまな市民活動の中から、「エコ」「環境」「まちづくり（地元を元気に)」など、まさに ESD をがんばっている団体や人、場を取材して、活動内容やそこに関わる人の思いなどを紹介しています。「おもしろそうだな・・」「一緒に活動したいな・・」と思ったら、アクセスして一緒に活動してもらえるよう連絡先も掲載しています。

学校の取組み紹介では、保育所・幼稚園・学校での取組みを紹介し、これから ESD に取り組んでいきたいという学校や園のモデルとなっています。

お店の取組み紹介では、ESD の視点から、「がんばるお店」の取組みを紹介しています。「なにかしたいけれど活動を始めるのは難しい」という方も、このようなお店を選んで買い物をすることで、ESD の取組みへの応援や参加につながることを促しています。

エコライフセミナーの紹介では、持続可能な社会の実現をめざし、地域の問題解決に向けて活動したいと思っている人たちが、学び合い、実行へ結びつけるため ESD セミナーを開催し内容を紹介しています。 2012 年のエコライフセミナーでは、WEB に登場しているお店や施設を巡るツアーを開催しました。このように、セミナーをとおして、地域の人材や団体、活動、施設など、地域にあるさまざまな社会資源をつないでいくことをめざしています。

http://esdtoyonaka.net/

コメント　ESD リソースセンター WEB 担当　宮崎　泰代

もともと環境や福祉といったことに関心があったので、身近に ESD の理念に添った活動・経営をされているグループやお店、学校などをたくさん知ることができ、また、私の書いた記事を通じてそれらを知っていただくお手伝いができることがとてもうれしいです。

「ESD リソースセンター WEB」について知りたい方は、環境政策室へご連絡ください。

ESDとよなか連絡会議

2009年～

足立　佐知子（豊中市教育委員会）

事務局会議の改編

豊中で ESD を推進するための行政と市民組織の連携組織である「ESD とよなか」は、2006・2007 年度と「持続可能な開発のための教育の 10 年促進事業」（P.9 参照）において、リソースセンターの立ち上げと運営、ESD とよなか事務局会議を ESD 推進協議会と位置付けるなどの取組みを進めて来られました。

私が配属された千里文化センター「コラボ」は 2008 年 2 月にオープンし、市民との協働で施策を推進する拠点として、「多世代・多分野・多文化の共生」を将来像に掲げ、そのめざすところは、まさに「ESD」の概念と一致するものであり、「ESD とよなか事務局会議」の一員に加わることになりました。

メンバーになって最初の仕事は、先述（せんじゅつ）の促進事業を実現化するために、事務局会議を改編することでした。「そもそも何を目的にするのか」から話し合い、会則の策定から役割分担まで決めていきました。誰かがイニシアティブをとらないと進まない状況の中、それでも「みんなで」決めていくことに重きをおいた組織づくりであったと記憶しております。

連絡会議の特徴

当初の連絡会議の特徴は大きく 2 点ありました。1 点めはメンバーが NPO、財団法人、社会福祉法人など、行政関係課と多彩であり、平場で議論をしたことです。行政だから、市民団体だからという遠慮はなく、どうすれば豊中で ESD を推進していけるかを話し合いました。2 点めは、事務局を固定せず持ち回りにしたことです。会長・副会長も年度で交代し、当日の記録作成も順番でした。ESD を推進する立場として平等に関わりましょうという気持ちが、メンバーにありました。ただ「持続可能な」取組みができなかったこともありました。

連絡会議は月 1 回定期開催し、それぞれの取組みの情報交換や共同事業などを実施しました。コラボにおいては「ESD セミナー」（P.11 参照）を数回実施しました。市民と連絡会議メンバーが同じテーブルについて、意見を出し合う形態は、現在のコラボの運営スタイルにもつながっているのではないでしょうか。

●改編時の経過（2009 年度当初の事務局会議）

4 月　参画団体のメンバーが一部交代し、多様な意見が出される
　　ESD とよなかは意思決定機関でないため、直接的な予算措置ができない
　　規約や事業計画策定に関する提案が出される

5 月　各団体ごとにこれまでの成果や課題、今後の関わり方を持ち寄る
　　意見交換から連絡会として残す方向となる

6 月　今後の方向性、進め方について議論

7 月　規約案の検討
　　初年度の代表：アジェンダ、副代表：コラボを選出
　　この回で ESD とよなかの事務局会議を終了する
　　第 1 回の ESD とよなか連絡会議を 11 月開催と決める

現在の ESD とよなか連絡会議メンバーからのコメントは P.23・24 をご覧ください。

「ESD とよなか連絡会議」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

千里文化センター「コラボ」との連携

2011年～

荒木　孝信（豊中市まちづくり総務室）

連絡会議での提案

ESD とよなか連絡会議（P.14 参照）は、ESD をテーマに取り組んでいる市民活動団体や市役所関連部署などで構成する緩やかなネットワーク組織です。主に、情報交換や情報共有を目的に適宜、会議を開催しています。私は、会議に出席していた中で、せっかくいくつもの組織が ESD 活動を活発化しようと集まっているのに、情報交換や情報共有だけではもったいないなあと感じ、年に 1 回は連絡会議で事業をしませんか？と提案しました。

連携した取組み

ちょうど、私が所属していた千里文化センターで予算と場所を確保することができ、震災を切り口にシンポジウムを開催したのが 2011 年でした。同年 3 月に東日本大震災が発生し、災害と ESD をテーマに議論を深めました。関西から遠い東日本での災害ですが、関西に住む私たちに何ができるのか、阪神・淡路大震災を体験した私たちは何をすべきなのか、自分たちの身近な課題として考え、行動することが ESD だと感じました。

2012 年には、子どもたちが記者に扮し、まちゆく人にインタビューをする「千里まめ記者探検隊」を開催。千里のいいところや紹介したい場所、あったらいいものを取材し、成果をこれからのまちづくりに活かしていく ESD ワークショップを実施しました。

ESD との出会い

私が連絡会議に出席できたのは 2 年間でしたが、ESD がさまざまな人たちとの出会いを演出してくれました。これまでにない価値観を学ぶことができ、人としてステップアップできたような気がします。ちょっと言い過ぎでしょうか？？？でも、ESD は、地球に暮らす全動植物にとって、とても大切な概念です。万物は有限です。私たちの命にも、地球の命にも限りがあります。その前提において、知能の高い人間が地球の恵みに生かされていることを謙虚に受け止め、行動しなければいけないと実感します。持続可能な発展は人の営みのすべての分野に関わること、そのことが地球に存在する万物に影響することを、私たちは強く認識すべきだと痛感した ESD との出会いでした。

●千里文化センター「コラボ」
- 2008 年 2 月にオープン。
- 5 施設（公民館、図書館、出張所、保健センター、老人福祉センター）を一体的に管理する市施設。
- 各施設の機能を組み合わせ、千里地区における「生涯学習」「文化創造」「行政サービス」の拠点として総合的に事業推進するコーディネーターの役割を担う。組織同士が連携を超えた概念で結ばれる、豊中市ではあまり例のない組織であり、新しい複合施設として歩みはじめる。
- また、市民との協働で施策を推進する拠点として、「多世代・多分野・多文化の共生」を将来像に掲げる。

「千里文化センター「コラボ」との連携」について知りたい方は、千里文化センターへご連絡ください。

リソースセンター構想

キーワード

井上　和彦（京のアジェンダ 21 フォーラム）

構想のきっかけ

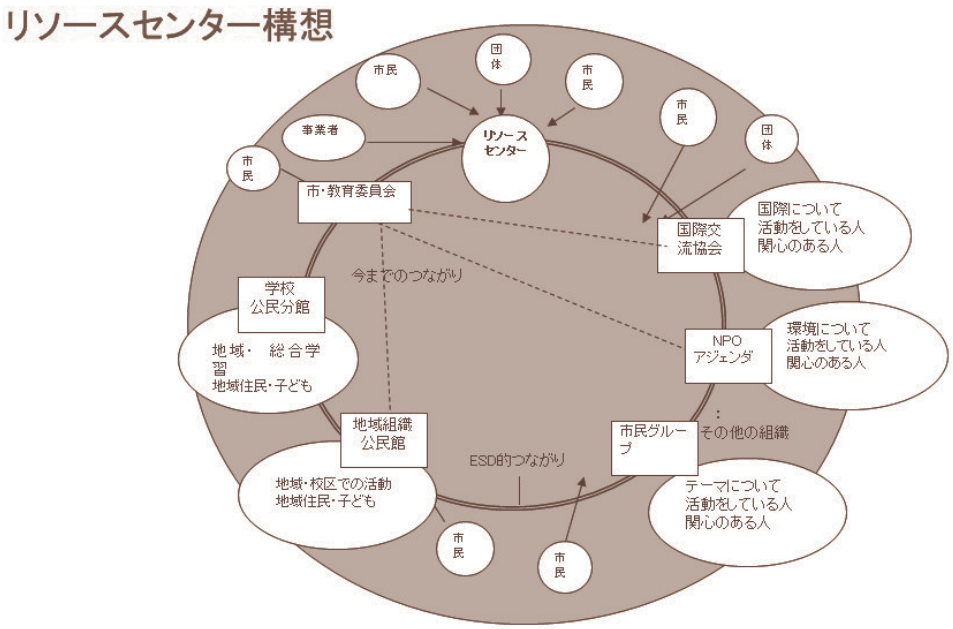
「リソースセンター」という言葉は、2006 年度に環境省 ESD 促進事業（P.9 参照）へ応募するにあたり、ESD とよなかでその時何が必要なのかを話し合う中で出てきたものです。採択時の事業概要では、「異なる教育分野間の連携促進のためのコーディネート機能の強化・定着を図る『ESD リソースセンター』の構築等を行う」と書かれ、2006 年度から 2007 年度のこの事業を進める中で、ESD とよなか事務局会議などで「リソースセンターとはどのようなものか？」について何度も話し合いました。

リソースセンターとは

リソースセンターについて話し合われた内容は以下の通りです。まず、センターと言ってもいわゆる「ハコモノ」ではなく、ESD に特化した組織を新たに作るわけでもないだろう。ESD の取組みは主体も場所も多様であっていいので、今ある各主体がそれぞれ取組みを行うが、その際、人材、手法、ノウハウ、情報などの「リソース」が誰もが使えるよう集約され、共有できるような機能があり、共有することで分野を超えた連携を進めるコーディネート機能が果たされればよい。ESD の取組みに参加する人や団体は、特定の窓口に限定されることはなく、ESD を行うどの主体にアクセスしても、リソースセンターを介して多様なテーマがつながっていることで、興味関心や活動の幅を広げることができ、もちろん直接リソースセンターにアクセスすることもできるというものです。そのためのコーディネーターの存在も欠かせません。

形になったリソースセンター

2007 年度の環境省 ESD 促進事業の成果として、まずは WEB 上にリソースセンターを作り、管理者を置くことからスタートすることになりました。翌年からスタートできるよう、豊中市が予算措置し、契約できるような環境を整えました。現在は、「ESD リソースセンターとよなか」という WEB サイト（P.13 参照）が運営されています。



地域のリソースを共有し、地域のつながりをつくっていく

「リソースセンター構想」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

公民館事業

キーワード

岩井　順一郎（豊中市青少年育成課）

公民館では、幅広い学習機会の提供に努めており、環境汚染に関する問題を取りあげた「環境教育」の機会は盛んに行っていましたが、座学の形式で実施されるものばかりで、本当の学びにならないのではないかと感じていました。そこで、体験学習という手法を取り入れ、「まち」に飛び出していく「まちのおもしろ探検隊」からヒントを得て、2008年に「環境展レポート隊」を子どもたちと一緒に実施しました。千成小学校の6年生に加えて、スタッフに豊中市青少年野外活動協会のみなさん、そして赤ちゃんからのESDのお母さんたちが協力し、環境展の出展団体を取材する「生きた環境学習」が展開できました。

その後、2010年にとよなか市民環境展での事業として、「環境学習をすすめるために」に取り組み、シンポジウムを開催しました。豊中からは、ESDリソースセンターの紹介を上村有里さん（赤ちゃんからのESD）より、学校教育との連携については、当時第11中学校で校長をされていた福田校長より、校内通信「緑潤風」に記載されている環境学習の視点などを話していただきました。また、ESDの先進地域でもある、岡山市京山地域より池田満之さんを招き、子どもを対象に取り組んでおられる事例を紹介していただきました。これは、前年度に豊中市公民分館長の視察研修で岡山を訪れたのがきっかけで、初めて出会う他市のESD取組み事例に衝撃を受けたことからでした。シンポジウムには、教職員や、地域活動に取り組んでいる方、NPO団体などが参加し、豊かな交流の機会になったと確信しています。

「公民館事業」について知りたい方は、環境政策室へご連絡ください。

＜写真展・パネル展＞

2004年12月に、2005年から国連ESDの10年がスタートするにあたり、「人が排除されるのではなく、“人と人とがつながるまち”、“人と自然が共生できるまち”をみんなでつくっていきたい！そんな願いを込めて」パネル展を開催しました。その後、朝日新聞社のカメラマンによる地球環境に関する写真展、とよなか市民環境展でのパネル展などを通して、ESDを広く知ってもらう機会を作りました。

2004年11月23日～28日　小林裕幸写真展「ロシアの少数民族の生活環境」
2004年12月6日～10日　パネル展「共に生きる～人と自然、人と人との共生」
2005年9月26日～30日　写真展「アジア・素顔の子どもたち」、パネル展「共に生きる＿ひと、しぜん、まちの再発見」
2007年11月13日～18日　写真展「地球異変」
その他、すてっぷ写真展（2007年）、パネルによる豊中の市民活動（2007年）、とよなか市民環境展（2004～2008年）など

「パネル展」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ21へご連絡ください。

しょうないREK

キーワード

小池　繁子（しょうない REK）

2004 年にできた市民公益活動推進条例の協働事業提案制度を利用して始まった REK の取り組みも ESD と同じく 10 年の月日がたちました。

活動の３つのキーワード【環境】・【活性】・【共生】を柱とし、【環境】市立図書館から出される除籍本をリサイクル販売し、ごみの減量に取り組みその収益を地域に還元する、【活性】活気ある安全で元気な町づくりをめざす、【共生】子どもや高齢者、外国市民などさまざまな背景を持つ人々が共に暮らせる地域づくりをすることとしています。

しょうない REK の活動は関わる人たちがそれぞれにもつ想いに支えられ、この 10 年の間にたくさんの団体や地域の人たちとつながり、関わり合いながら続いてきました。協働事業の持つ性格から行政、中間支援組織、地域団体などさまざまな立場のメンバーがいろいろな専門性をもって関わり合っています。これまでのつながりが、深く交わり合い、大きく育つしょうない REK をつくっていきたいと思います。

2004 年　協働事業提案による成案化の決定
2005 年　「庄内モデル事業実行委員会」としてスタート
2010 年　「みんなに“ありがとう”大同窓会」の開催
2012 年　「しょうない REK のキセキ」発行

「しょうない REK」について知りたい方は、しょうない REK 事務局（庄内図書館内）へご連絡ください。

天竺のはらっぱであそぼう会

キーワード

井上　和彦（天竺のはらっぱであそぼう会）

2004 年度に設立された、地域団体と行政で構成され、天竺川の河川整備について考える服部緑地・天竺川周辺「地域の魅力・顔づくりプロジェクト」推進連絡協議会（天竺川協議会）の中で、天竺川沿いの服部緑地の公園区域内でありながら、ごみの不法投棄等の問題があってフェンスで閉鎖された場所の有効活用が検討されました。2008 年に開催した意見交換会では、この場所を子どもが自然に触れながら主体的に遊べる場として試験的に開放することになり、その際、地域住民が中心になって「天竺のはらっぱであそぼう会」を設立し、以降、この開放の企画・運営を行っています。

会のメンバーは子育て中の母親が中心ですが、この場所に関わる行政職員や地域住民、遊びに来る子どもたちなどと一緒に、あらゆる人々を対象にした公共の場所のあり方、自然と管理のバランス、危険と自由の間での責任の持ち方、子どもの成長とおとなの関わり方、団体としての合意形成や運営など、多くのことを経験から学びました。このプロセスは、まさに住民が地域で公共的な働きを担うために学びあう ESD と言えます。

2004 年　天竺川協議会の発足（服部緑地内の閉鎖空間の利活用が検討）
2008 年　地域住民や関係者による意見交換会での提案から、第 1 回「天竺のはらっぱであそぼう！」を開催し、この企画・運営メンバーで「天竺のはらっぱであそぼう会」を結成
2009 ～ 2010 年　豊中市市民公益活動推進助成金交付
2014 年　第 8 回とよなかエコ市民賞 2014 受賞

「天竺のはらっぱであそぼう会」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

10年間の成果

まとめ

廣田　学（とよなか市民環境会議アジェンダ 21）

この冊子で紹介してきた ESD の取組みを通して、豊中の 10 年間では直接的・間接的に次のような成果があったと考えられます。

① 団体と行政の連携・つながり・議論の場を持てたこと
② 各団体が ESD の視点を持ち、成長することができたこと
③ ESD 的な活動が地域で出てきたこと
④ 目に見える成果（赤ちゃんからの ESD、リソースセンター WEB）があったこと
⑤ 10 年で終わらずに続けたい方向に向かっていること

①団体と行政の連携・つながり・議論の場を持てたこと

まずは ESD について、団体と行政の集う場を作ることができたことです。ESD とよなか事務局（P.7 参照）、ESD とよなか連絡会議（P.14 参照）の場を通して、団体と行政の関係者が顔の見える関係となり、ESD を通して連携し、継続的に議論していくことができました。最初にゆるやかなネットワークから場に集まったため、できることを分担しあうことを基本としつつ、「今日はごめん」「いいよ、次はよろしく」と気軽に言い合える関係を大切にしてきました。

②各団体が ESD の視点を持ち、成長することができたこと

ESD の取組みを通して、参加した担当者は ESD の視点を持つことができました。各自が所属する団体・部署で取組みをする際、自身の分野（環境・国際・人権など）だけにとらわれず、ESD 的に広い視点で物事をとらえ、推進していくことにつながりました。そうした経験は、当時の所属を離れた今も糧となっています。

③ ESD 的な活動が地域で出てきたこと

「ESD リソースセンター WEB」（P.13 参照）に掲載する情報の取材を通して、地域で ESD 的な活動が広がりつつあることがわかってきました。私たちの取組みが直接的・間接的に影響したもの、ESD の理解が広がることで「これも ESD の活動だね」と認識されるようになったものなど多岐にわたりますが、いずれの活動も地域で重要な役割を果たしています。

④目に見える成果があったこと

ESD の取組みは単なる普及啓発に留まらず、目に見える成果をあげることができました。1 つは「赤ちゃんからの ESD」（P.8 参照）です。2005 年のキックオフミーティングの際、ワークショップで生まれたアイデアから、若いお母さん世代の連続講座の開催となり、参加したメンバーがグループとして、今も継続的に活動が続けられています。

もう 1 つは「ESD リソースセンター WEB」です。参加した各団体の情報くらいはお互いに共有できるようにしようという意見から始まり、環境省の ESD 促進事業（P.9 参照）のなかで議論を深めて、現在の WEB ページの運用へとつながりました。

⑤ 10 年で終わらずに続けたい方向に向かっていること

ESD とよなか連絡会議（P.14 参照）への移行後、ESD の 10 年の最終年で終了するという議論も再三ありました。しかし、現在は「今ある議論の場は貴重で、今後作ることは難しい」「みんなで楽しみながら続けたら」という前向きな意見も多く、この冊子でも“ESD0 年の人”に向けてのメッセージ（P.23・24 参照）を盛り込み、単なる報告に終わらない、今後につながることをめざしています。

また、地域で ESD 的な活動が広がりつつある具体的な事例として、ここでは取組みを 2 つ紹介します。いずれも ESD リソースセンター WEB（P.13 参照）に内容を掲載しています。

とよなかま（豊中）

「とよなかま」が企画する「カラフルキッチン」は小学生対象で、地域に住む外国人と一緒に母国の料理を作って、味わいながら異文化を肌で感じるイベントです。「もっと深く自分たちの文化を伝えたい」という外国人の声を聞き、小学校の授業では取り組めない外国料理の“体験型多文化理解のイベント”の企画を始めました。「子ども時代から、単なる知識ではなく、直接いろいろな背景を持つ外国人と触れ合うことで、異文化を排除するのではなくて理解する気持ちが育ち、多文化共生につながれば」と、毎回ミーティングを重ねて、充実したプログラムをつくっています。

団欒長屋プロジェクト（蛍池）

「多世代でつながる子育て空間」を合言葉に、土曜日の学童保育を中心に、多世代交流の拠点をめざしている団欒長屋。大学生や社会人のボランティアとの勉強（宿題）、掃除や畑作業、地域のイベントへの参加、自然遊び、外国の話などの楽しいプログラムが盛りだくさん。現在は、取材を通して近隣の高齢者などいろいろな人と関わっていければと、『だんらんしんぶん』という冊子作りにチャレンジ中。

子育て世代やリタイア世代が地域から孤立せず、得意なことを活かして助け合うなど、子どもを真ん中に個人としてゆるくつながり、暮らしをシェアするオープンな保育の場をめざしています。

「10 年間の成果」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

＜豊中を越えた他地域との主なつながり＞

ESD の活動を通じて、豊中市外の各地域や多様な方々とのつながりがありました。ESD とよなか事務局に参画する各団体のネットワークによるものもあれば、事業を通して独自につながりを作ったものもありました。

・各団体との交流
　開発教育協会、環境教育学会関西支部、大学 ASP（大阪教育大付属高校の卒業生によるグループ）
・他地域で活躍されているワークショップなどのコーディネーター
　森良さん、川島憲志さん、大滝あやさん、堀孝弘さん、永橋爲介さん
・他地域への視察（杉並区、日野市）、他地域との交流会や報告会（北九州市、西宮市）
・環境省の促進事業を通した交流
　環境省、きんき環境館、ESD-J、他のモデル地域（特に西宮の LEAF、西淀川のあおぞら財団・西淀川高校）

「他地域との主なつながり」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

ESDと私　ーこれまでの活

かかわった当時の思い出や、ESDを通して

【副市長　田中　逸郎】

2004年から始まったESDとよなか。実は、その底流には<前史>ともいうべき取組みー「活動と社会参加をつなぐボランティア・トレーニング・コース」がありました。国流・男女・社協・市民活動課（現コミュニティ政策室）が事務局となって、2002年にスタート。分野を超えた体験学習から、活動のエンパワーメントとつながりを模索、ESDへとバトンタッチしました。豊中の市民活動は、これからも脈々と続くものと確信しています。

【大阪大学特任准教授　榎井　縁】

ESDをはじめた頃、「なぜ国流がやるのか」とよく言われていました。環境、男女共同参画、人権、国際の取組みが公的制度によって分化されていることを痛感し、だからこそそれをつなげ、一人ひとりの自分事にしないとならないと思いました。そんな想いで声を上げたら応じてくれた、豊中でいい仲間と出会えたことを感謝しています。

【コミュニティ政策室　山本　瑞枝】

ESDという新しい概念をしっかりと根付かせるには、息の長い取組みが必要だと感じています。理念や理屈よりも、市民、事業者、行政職員といった立場の違い、あるいは子どもから大人までの世代を越えて、それぞれが主体的に現場での実践を通して体得していくことが、持続的な取組みにつながるのではないでしょうか。

【教職員室　堤　昌子】

6年前、ESDとよなかのみなさんと出会いました。世代も仕事も違う人が集まって、写真ワークショップを行い、昔の写真から同じ場所を探すという探険をしたことが、一番心に残っています。出会いが一番の宝物です！

【障害福祉課　阪口　剛】

ESDは、E（ええ加減→ほど良く。無理なく）、S（すすめる）、D（できることからやる。最初からダメと決めつけない）取組みだと思っています。福祉の分野で、想いを受け止め、まず改善できるものから少しずつ…！

【しょうないREK　小池　繁子】

あのキックオフミーティングから10年！当時のワークショップの写真には幼いころの娘たちの姿が。4年前の夏に小学生の息子が参加したユネスコスクール。これまでの子どもたちの成長がそのままESDの10年と重なり、これからの土台となっていることを実感しています。

【まちづくり総務室　荒木　孝信】

私が2008年に配属された千里文化センターでは、市民が主役の運営管理を実践。ESDも取組みテーマのひとつでした。ESDを知れば知るほど奥深さを発見。人と人を結びつける魔法の道具だと実感しました。ESDとよなか連絡会議でのさまざまな人たちとの出会いが、とても懐かしく感じます。

【京のアジェンダ21フォーラム　井上　和彦】

「ESD」とは不思議な言葉だと思います。「持続可能な開発のための教育」と訳しても「わかりにくい」と言う人が多い反面、知り合う機会のなかった人たちでも「ESD」というキーワードですぐ理解しあえる場面も多くありました。私は、ESDによって多様で素敵な人たちとたくさん出会えたことが大きな糧になりました。

動をつないできたみなさん ー

得られた経験などを寄せてもらいました。

【教育長　大源　文造】

ESD をきっかけに「赤ちゃんからの ESD」などさまざまな活動が生まれました。それらの活動は、分野や領域を超えた、新たな出会いや交流を生み出し、これまでにない学びや協働のスタイルとして多くの成果をあげてこられました。今後、「持続可能な社会」の実現に向けて大きな原動力となることを期待しています。

【教育委員会　足立　佐知子】

ESD との出会いは、職員研修所にいたときです。その後、人事異動に伴い、いくつか仕事を担当しましたが、いつも ESD との関連がありました。なんでかな？そうか、市行政の底流には、ESD の理念が流れているのですね。この事実を若い職員さんたちにも伝えていきたいと思います。

【とよなか市民活動ネットきずな　坂田　慶子】

私にとって ESD は、日常のなかで、いま地球上に起こっていることに想いを馳せ、気づきや学びを積み重ねて、子どもたちが受け継ぐ未来を想像する、そのための小さな一歩を踏み出すことの大切さを教えてもらった場でした。

【とよなか男女共同参画推進財団　小河　洋子】

印象深いのは、担当時期が重なった環境省の促進事業でセミナーを実施したことや全国の取組み事例を聞けたことです。「ESD に男女共同参画の立場で関わるとは？」という問いが、担当を離れた今も頭を過ぎります。

【障害福祉課　山根　歩】

ESD セミナーなどを通じて、さまざまな方に出会いました。いろいろな分野で活動に取り組んでいる方がいらっしゃることを知り、ESD を進めていくには私たちみんなが、いろいろな視点で物事を考えられるようになることが大切なのかなあと感じています。

【青少年育成課　岩井　順一郎】

ESD がスタートしたとき、国際交流協会からの依頼で、小学校を借りてプログラムを展開したことがありますが、その時のゲストが、有名な新聞記者で北極熊が地球温暖化で危ないと学ぶ機会となりました。その記者が雨の日、傘をさして、刀根山の坂を上ってくる高校生を撮っておられた写真を見て、ESD の取組みは日常生活の中の気づきが大切だと感じました。

【教育推進室　安家　紀子】

ESD で始まる豊中型国際教育の推進に携わり７年が過ぎます。ESD は、私自身にグローバルな視点で教育を考える貴重な機会を与えてくれました。教育現場に学びの広がりがうまれ、国や地域を越え多くの人と、ESD で「つどい」、「つながり」、協働することで「共に生きる」ことの意味をより深く考えるようになりました。

ESDと私　ーこれから未来へ

「ESD 0年」の人たちへ向けて、ESDとよなか連絡会議の

【とよなか男女共同参画推進財団　西村　寿子】
持続可能な地域づくりには、社会を生きる一人ひとりが自分の生き方を見つめ、意識や行動を変えることが必要だと思います。その意味で、男女が平等にいきいきと生きる社会をめざす男女共同参画の取組みと重なります。

【赤ちゃんからのESD　上村　有里】
10年経ってもやっぱり「Eいいこと」「Sスマイル」で「Dどんどん」！身近な課題に気づき、行動にうつすことのできる人を笑顔でどんどん増やしていきたいです！

【とよなか市民活動ネットきずな　永田　良昭】
「ESDって何」っていうのが普通の市民の率直な感じ。いろんな市民が、いろんな場でESDにかかわっているのに。みんながESDの担い手、“つながっていく”とおもしろい展開があるのかも。

【人権教育室　大西　政光】
連絡会議は、最初からの人や今年から参加された人、いろんな人と出会い、毎年「今年もみんなで何かやろうや」と、力強い言葉がどこからか出てきて、ともに行動していることで、多くの人とつながりができたこと大切にしていきたいと思います。

【環境政策室　船越　亜里沙】
きっかけとなる10年でこれからが本番です。難しく考えず、身近にあるいろいろな課題に目を向ければ、これからみなさんもESDの一歩になると思います。みんなで未来につなげていきましょう。

【環境政策室　豊田　泰則】
ESDを知って2年。さまざまな事業や取組みを行ううえで根本的な考え方であると勉強になりました。今後の仕事や生活で意識していくことを多く学べる機会となったことや、連絡会議のメンバーと知り合えたことは、大きな財産だと思っています。

【人権政策室　能勢　優紀】
今年度からESDとよなか連絡会議に参加させてもらっています。「ESDイコール環境」というイメージがありましたが、会議に参加させていただくうちにいろいろな分野につながるものということがわかり、とても勉強になりました。今後、自分自身にできるESDについても考えていけたらと思います。

活動をつなぐみなさん ー

メンバーからメッセージを寄せてもらいました。

【千里地域連携センター　又吉　信光・田村　尚美】

コラボでは、市民が主体となり「多世代・多分野・多文化の共生」を実現するため、「人と人・人と情報の交流・環境への配慮」を大切に千里が持つ地域資源を活用し取組みを進めています。持続可能な地域活動を推し進めるためには、市民力はもとより、世代間交流が必要です。

【とよなか国際交流協会　金　相文】

知れば知るほど「ESD」は「いいえすで～！」と言いたくなるほど、持続可能な社会の実現に必要な活動だと感じています。「ESD」には、平和・人権・環境・共生など、未来への課題を克服するためのヒントがいっぱい詰まっています。

【地域教育振興室　登　幸代】

ESD 初心者ですが、環境、社会、経済のバランスのとれた社会を次世代につなげていくために、常日頃から問題意識を持って生活し、「今よりちょっといい」「みんなが笑顔になれる」をめざす取組みであるＥＳＤは、本当に素晴らしい、なくてはならないもの、と感じています。

【とよなか人権文化まちづくり協会　重本　洋輔】

ESD の取組みは、環境だけでなく、人権も含めたさまざまな分野の問題・課題に通じています。今後は ESD の取組みを通して学んだことをヒントに「持続可能な人権啓発」の方法について考えていきたいと思います。

【とよなか市民環境会議アジェンダ 21　正阿彌　崇子】

今の活動に「考えること」「つながりを感じること」「何か行動に移すこと」を意識してみてください。どんなテーマからもちょっと視点を変えるだけで、深みのある ESD になり、きっと世界が広がりますよ。

【とよなか市民環境会議アジェンダ 21　廣田　学】

NPO も縦割りの中で、ESD は重要なキーワード。地域でのあなたの活動が、課題解決と ESD の発展につながっています。ESD は何度聞いてもよくわからない言葉かもしれませんが、実践から定義や意味を形作るというくらいの感覚で取り組んでみてはいかがでしょうか。

資料編　豊中市内のESD年表

実施日	内　容
2004年（平成16年）	
7月15日	「持続可能な開発のための教育の10年」（ESD）に関する学習会・ワークショップ
8月23日～24日	チャレンジ★写真ワークショップin庄内
11月23日～28日	小林裕幸写真展「ロシアの少数民族の生活と環境」
11月25日	「持続可能な開発のための教育の10年」の地域展開を考える学習会
12月3日～4日	とよなか市民環境展2004出展
12月6日～10日	パネル展「共に生きる～人と自然、人と人との共生」
12月18日	チャレンジ★写真ワークショップinこくめい
2005年（平成17年）	
2月26日	ESDとよなかキックオフミーティング
4月15日	第1回学習会「持続可能な開発のための教育（ESD）の10年」がめざすもの
4月23日	ESDとよなかワークショップPartⅡ
7月8日	第2回学習会「市民がつくる未来への学び」
7月9日～10日	ESDファシリテータートレーニングコース
7月30日～31日	チャレンジ★写真ワークショップin刀根山
9月26日～30日	写真展「アジア・素顔の子どもたち」、パネル展「共に生きる＿ひと、しぜん、まちの再発見」
11月5日	ESDとよなかワークショップPartⅢ
12月2日～3日	とよなか市民環境展2005出展
2006年（平成18年）	
2月～3月	赤ちゃんからのESD連続講座（全4回）
10月	豊中市庁内連絡会議立ち上げ
11月1日～2日	環境省ESD促進事業採択（2年間）キックオフミーティング参加
11月22日	豊中市国際教育推進協議会の立ち上げ
11月30日～2月22日	赤ちゃんからのESD参加メンバーによる学習会やワークショップ（4回）
12月1日～2日	とよなか市民環境展2006出展
2007年（平成19年）	
1月～3月	リソースブックの作成
2月3日	開発教育協会ワークショップの共催
2月10日	しょうないREK瓦版（ESD合同企画号）の発行（カラー・7,000部）
2月16日	東京都杉並区への視察調査
2月20日～3月6日	すてっぷパネル展
2月24日	ESDフォーラム（豊中市庁内連絡会議主催）
2月25日	これからのまちとくらしを考える！こどもワークショップ「○○になって見ました」
3月6日～27日	赤ちゃんからのESD連続講座（全4回）
3月7日	近畿地域ESDフォーラムでの事例発表・パネルディスカッション
3月25日	東京都日野市への視察調査
6月4日～7日	「パネルによる豊中の市民活動」出展
7月13日	行政課題セミナー「格差社会を考える」
7月24日	これからのまちとくらしを考える！こどもワークショップ「○○になって見ました！Time Traveler編」

8月4日～5日	「豊中まつり2007 ～市民活動パネル展」出展
9月11日	環境教育学会関西支部ワークショップで取組みを報告
9月12日	豊中市立上野小学校教員対象ESDワークショップ
11月10日	講演会「地球異変　スバールバル諸島のホッキョクグマたち」
11月13日～18日	写真展「北極異変」
11月17日	ESDワークショップ「気づく　築いていく　わたしたちのまち　とよなか」
12月7日～8日	とよなか市民環境展2007出展
2008年（平成20年）	
1月13日	ファインダーの向こうがわ～ことばをとらえ、これからを描くインタビューワークショップ～
2月15日	経験交流ミーティング（環境省促進事業の報告会）
2月20日	しょうないREK瓦版（ESD合同企画号）の発行（カラー・7,500部）
3月2日	しょうないdeくらし隊 ～写真ワークショップ～
3月8日	西宮ESD交流会
3月15日	赤ちゃんからのESD「みんなにこにこ家族まつり」
3月16日	未来パレットin北九州 ～ESD活動報告会～
3月21日	シンポジウム「みんなで創ろう－どうすすめるのESD？」での成果報告
8月29日	写真ワークショップ「わがまち上野再発見」
7月5日～11月16日	ESDセミナー　～わたしから広げる　未来のまちのつくりかた～（全4回）
12月12～13日	地球にいいことみつけ隊in環境展（環境展レポート隊）
2009年（平成21年）	
1月29日	豊中市国際教育シンポジウム「つどう・つながる・つちかう　～未来への行動力　豊中型国際教育の提案～」
2月3日	ESDセミナー番外編「伝える！情報誌の作り方　実践！ESDセミナーレポート作成」
9月	ESDリソースセンターWEBの公開（現在の形式のページ）
9月30日～10月28日	エコライフ連続セミナー　～「食」から地域・世界とつながろう！（全4回）
11月18日～12月12日	エコライフ連続セミナーアクション編（全2回）
12月11日～12日	私が取り組んでいるエコな活動発表・展示と交流
2010年（平成22年）	
1月31日	豊中のこれからのESDを考える～国連「ESDの10年」中間年にあたって～
10月5日～26日	エコライフセミナー　～「食」から地域・世界とつながろう！（全4回）
11月16日～12月11日	エコライフセミナーアクション編（全3回）
12月11日	環境学習をすすめるために
2011年（平成23年）	
8月20日	千里文化センターフォーラム「災害を通して考える私たちのESD」
10月29日～11月19日	エコライフセミナー　～親子ではじめるエコライフ～（全4回）
2012年（平成24年）	
10月27日	コラボまつり「千里まめ記者探検隊～私たちのまちの自慢を探そう～」
11月3日～23日	エコライフセミナー　～豊中再発見！まちあるきツアー～（全3回）
2014年（平成26年）	
1月18日～19日	ESDセミナー「私のいいとこ　みーつけた！」（全2回）
2月5日	千里文化センターフォーラム「未来へつながる、地域のちから～とよなかESD10年～」
11月8日	ESD世界大会（岡山大会）分科会で豊中市教育委員会と第二中学校が実践発表

資料編「ESDの10年」とよなか連絡会議設置要綱（庁内連絡会議）

「持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」
とよなか連絡会議設置要綱

（目 的）
第１条　この要綱は、国連「持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年」の取組みに関する連携を図り、当面の豊中市における取組みを総合的に推進することを目的として、「国連・持続可能な開発のための教育（ESD）の 10 年・とよなか連絡会議（以下「ESD とよなか連絡会議」という。）を設置する。

（所掌事務）
第２条　ESD とよなか連絡会議は、次の各号に掲げる事項について協議し、必要な事務・調整を行う。
⑴　ESD の取組みに関すること。
⑵　前号に掲げるもののほか、その推進及び調整に関すること。

（組　織）
第３条　ESD とよなか連絡会議は、別表－１に掲げる部局にある者をもって構成する。
２　ESD とよなか連絡会議に座長及び副座長を置き、座長は生涯学習推進室長が、副座長は環境政策室長が当たる。
３　ESD とよなか連絡会議は、その役割を終えたと承認された際には、連絡会議を終了するものとする。

（運　営）
第４条　座長は、ESD とよなか連絡会議の事務を総理し、会議を招集し、その議長となる。
２　座長に事故あるときは、副座長がその職務を行う。
３　座長は、必要があると認めるときは、その都度本部局及び室・課を追加することができる。
４　座長は、必要があると認めるときは、作業部会を置くことができる。
５　座長はこの会議で検討や協議の上で「持続可能な開発のために必要な事項」が見出された際は、部長会等の関連組織に報告する。
６　座長は、必要に応じてオブザーバーを出席させることができる。

（庶　務）
第５条　ESD とよなか連絡会議の庶務は、環境政策室と生涯学習推進室が共同で行う。

（雑　則）
第６条　この要綱の定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は ESD とよなか連絡会議の議を経て座長が定める。

附　則
１　この要綱は、平成 18 年 10 月 19 日から実施する。

別表１　連絡会議の構成

部　室　名		課　名
総務部	人材育成室	職員研修所
人権文化部		市民活動課
		人権企画課
政策推進部		広報広聴課
環境部	環境政策室	環境企画チーム
		公園みどり推進課
市民生活部		市民生活課
健康福祉部		地域福祉課
		健康づくり推進課
こども未来部		子育て支援課
		青少年課
教育委員会	学校教育室	学校指導課
		教育センター
	生涯学習推進室	地域教育振興課
		人権教育企画課
財団法人 とよなか国際交流協会		
財団法人 とよなか男女共同参画推進財団		
社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会		

資料編　ESD とよなか連絡会議規約

ESD とよなか連絡会議規約

（趣　旨）

第１条　国連「持続可能な開発のための教育（以下「ESD」という。）の 10 年」の理念に基づき、多様な主体の参画と協働による持続可能なまちづくりの取組みを推進するため、ESD とよなか連絡会議（以下「連絡会議」という。）を組織し、その運営に必要な事項を定める。

（事　業）

第２条　連絡会議は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

⑴　ESD の普及・促進に関する構成団体の取り組みに関する情報の共有

⑵　その他目的を達成するために必要な事項

（組　織）

第３条　連絡会議は、別表１に掲げる団体又は個人をもって構成し、構成団体は委員を選出する。

２　別表１の団体のうち、豊中市については、別表２の室又は課が参加する。

３　第１条に掲げる趣旨に賛同する団体又は個人は、連絡会議の承認を得て、連絡会議に参加することができる。

（役　員）

第４条　連絡会議に、代表及び副代表を置く。

２　代表及び副代表は、委員の互選により選出する。

３　代表は、連絡会議の会務を総理する。

４　副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるときは、その職務を代理する。

５　代表及び副代表の任期は１年とし、年度当初に改選を行う。ただし、再任を妨げないものとする。

（会　議）

第５条　会議は年度当初及び年度末その他必要に応じて代表が招集し、代表が議長となる。

２　代表は、必要であると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見又は説明を聴くことができる。

（事務局）

第６条　連絡会議の事務局は、副代表の属する団体に置く。

附　則

１　この規約は、平成 21 年（2009 年）8 月 24 日から実施する。

２　この規約の実施後最初に就任する代表及び副代表の任期は、第４条第５項の規定にかかわらず、平成 22 年３月 31 日までとする。

別表１

団　　体　　名
公益財団法人とよなか国際交流協会
一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団
社会福祉法人豊中市社会福祉協議会
特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21
特定非営利活動法人とよなか市民活動ネットきずな
一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
赤ちゃんからの ESD
豊中市

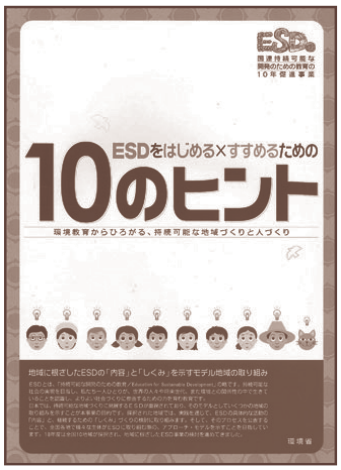
別表２

室又は課名
人権文化部人権政策室
環境部環境政策室
市民協働部千里地域連携センター
教育委員会事務局地域教育振興室
教育委員会事務局人権教育室

資料編　豊中の ESD が紹介された発行物

ESD がわかる！
監修・制作：ESD-J
発行年：2006 年
参考事例として、ESD とよなかの活動が紹介

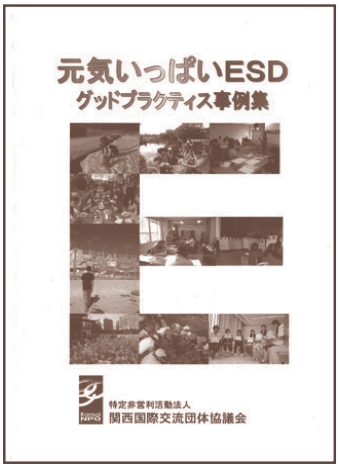
国連持続可能な開発のための10年がはじまります
発行：環境省総合環境政策局環境教育推進室
発行年：2005 年
各地の具体的な動きの1つとして豊中の活動が紹介



ESDをはじめる×すすめるための10のヒント
発行：環境省総合環境政策局環境教育推進室
発行年：2007 年
環境省 ESD 促進事業の採択地域 10 カ所（初年度）の実施内容と ESD をすすめるためのヒントが紹介

ESD をはじめよう
発行：環境省近畿地方環境事務所
　　きんき環境館
発行年：2007 年
ESD 座談会に参加した内容、環境省 ESD 促進事業の近畿地域の取組みとして紹介

地域から学ぶ・つなぐ39のヒント
発行：環境省総合環境政策局環境教育推進室
発行年：2009 年
環境省 ESD 促進事業に取り組んだ 14 地域のポイントをヒントとして、また、促進事業の実施内容が紹介



元気いっぱい ESD　グッドプラクティス事例集
発行：NPO 法人関西国際交流団体協議会
発行年：2014 年
ESD のさまざまな取組みの中で、「図書館のリサイクル本活用」「陶器とりかえ隊」「ESD リソースセンター WEB」が紹介

「豊中の ESD が紹介された発行物」について知りたい方は、とよなか市民環境会議アジェンダ 21 へご連絡ください。

ESD とよなか

＜発行協力団体連絡先＞

●公益財団法人とよなか国際交流協会
TEL：06-6843-4343　FAX：06-6843-4375
E-mail：atoms@a.zaq.jp
http://www.a-atoms.info/

●一般財団法人とよなか男女共同参画推進財団
TEL：06-6844-9772　FAX：06-6844-9706
E-mail：step-9773@toyonaka-step.jp
http://www.toyonaka-step.jp/index.html

●特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21
TEL：06-6844-8611　FAX：06-6844-8668
E-mail：jimukyoku@toyonaka-agenda21.jp
http://toyonaka-agenda21.jp/

●特定非営利活動法人とよなか市民活動ネットきずな
TEL/FAX：06-6848-8989
E-mail：mail@kizuna-toyonaka.or.jp
http://www.kizuna-toyonaka.or.jp/

●一般財団法人とよなか人権文化まちづくり協会
TEL：06-6841-5300　FAX：06-6841-6655
E-mail：jinken@tcct.zaq.ne.jp
http://www.tcct.zaq.ne.jp/jinken/

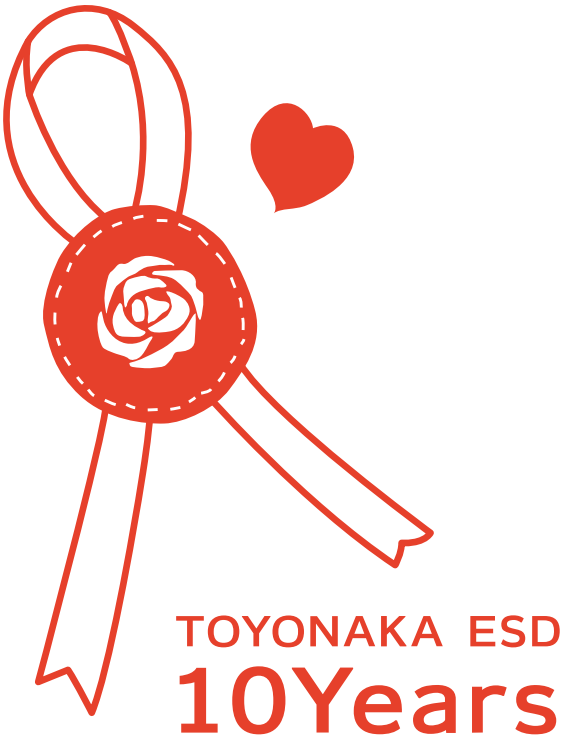
●赤ちゃんからの ESD
TEL：090-2358-6626（代表・上村）
E-mail：baby_esd@yahoo.co.jp
http://babyesd.web.fc2.com/

＜その他の問合せ先＞

●豊中市環境部環境政策室　TEL 06-6858-2128
●豊中市教育委員会教育推進室　TEL 06-6858-2846
●豊中市千里文化センター「コラボ」　TEL 06-6831-4133
●豊中市立庄内図書館　TEL 06-6334-1261

＜各ページの「知りたい方は」について＞

過去の取組みなどは、各ページに記載の団体・部署でも、即答できない場合があります。
可能な範囲で回答させていただきます



未来につなぐみんなのチャレンジ

～豊中のESD10年のまとめ～

発　行　平成27年（2015年）3月
編　集　豊中市環境部環境政策室
〒561-8501　豊中市中桜塚3-1-1
TEL 06-6858-2128　FAX 06-6842-2802
E-mail kankyoukeikaku@city.toyonaka.osaka.jp
ホームページ http://www.city.toyonaka.osaka.jp
協　力　ESDとよなか連絡会議
編集協力　NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
デザイン　石山 麟